

平成 30 年 7 月 23 日

三島市長 豊岡武士 様

特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島
理事長 小松幸子
三島駅南口の整備を考える市民の会
代 表 渡辺豊博

三島駅南口東街区再開発事業に関する要望書

「水の都・三島」の魅力的で住みやすい居住環境と豊かな水辺自然環境を守り、未来の三島を担う子どもたちに地域の宝物を引き継いでいくために、豊岡武士三島市長に対して、現在進めている三島駅南口東街区再開発事業を「中止」して、事業内容を根本的に見直すことを要望します。

1 財政破綻を誘導し市民に過大な負担を強いる、三島駅南口東街区再開発事業を「中止」して、事業内容を根本的に見直すこと

三島市は現在、東街区で高さ 99.5m の高層マンション計画の事業化を進めています。近々に事業者と地権者との「協定締結」が予定されており、総事業費 220 億円、三島市の支出は 61 億円と聞いております。さらに、川勝知事の本事業の高層マンション計画についての反対意向の表明を踏まえ、県補助金 15 億円と国補助金 45 億円計 60 億円の補助金支出も不確定です。

「公共施設マネジメント計画」では、今後 60 年間で 1,780 億円、毎年 30 億円程度が必要とされ、建て替えが急務な市役所本館の建設費用は 80 億円程度かかります。今でも三島市には 390 億円もの借金があり、こんな中で本事業が実施されれば、三島市の「財政破綻」は明らかです。

「世界水遺産」に登録された「源兵衛川」の事業費は、約 15 億円で三島市の支出は 4 億円程度ですが、現在「水の街・三島」の賑わい拠点になっています。このような費用対効果の大きな例があるにも拘らず、本事業は大規模過ぎて、三島市の財政規模や本事業の経済効果を勘案しても「過大投資」といえます。

そこで、市民に過大な負担を強いる本事業を「中止」して、事業内容を根本的に見直しすることを要望します。

2 本事業を中止し事業内容を見直し「市民総意」の計画づくりとすること

三島駅南口東街区再開発事業については、市民や議会の理解と合意を得て進めてきたと市長は発言しています。しかし、今回の高層マンション計画は本当に市民との多様な議論を踏まえた「市民総意」の計画なのでしょうか。企業の事業提案や採算性、地権者の要望のみに偏った計画ではありませんか。

そこで今後、本事業を「中止」して、事業内容の見直しを行い、多くの市民が抱えている疑問や不安を払拭できるように、市民の意見や提案、アイデアを聞く、「市民公開討論会」の開催を要望します。

3 地下水の流動性を検証するための「環境アセスメント調査」を実施すること

東街区の直下には、富士山からの三島溶岩流の地下水本流が流れおり、菰池公園や白滝公園、桜川、御殿川など、「水の都・三島」の命・顔といえる、貴重な湧水地が点在し、湧水河川も流れています。

今回、東街区に高層マンションが建設されることによって、貴重な地下水の流れに悪影響を与えることが懸念されることから、三島市による3年以上にわたる、広域的・継続的・長期的・科学的な、三島駅南口周辺「環境アセスメント調査」を実施することを要望します。

4 街中と水辺を歩ける「回遊性」ある街づくりと富士山の眺望を保全すること

南口に、ホテルやレストラン、高層マンション、商業施設など、集客施設が集中化することによって、交通渋滞の常態化や中心商店街への人の流れが、減少することにより、商店街の経済的な影響・衰退が懸念されます。

そこで、御殿川の親水公園化や浅間芝岡神社周辺の水の杜施設の整備、境川・清住緑地の水の郷湧水公園化、空き家を活用した居住地や商店整備など、新たな街づくりを進めることが、喫緊の課題であることから、歩いて楽しい、水辺環境とマッチした、「回遊性」ある街づくりの実現化を、最優先の行政施策として取り組むことを要望します。

また、南口や市内から見える、富士山の美しい景観を阻害する高層マンション計画を容認することは絶対に認められず、三島っ子の品格と誇り、愛郷心を傷付ける異質な事業計画案といえます。

そこで、富士山の眺望を阻害しない、南口東街区の再開発計画を立案することを要望します。

以上を、要望するとともに、現在までに進めてきた、「三島駅南口再開発事業による影響から三島の環境を守る署名活動による署名」用紙と、「水の都・三島を財政破綻と魅力破壊から守る署名活動による署名」用紙とともに、提出いたします。